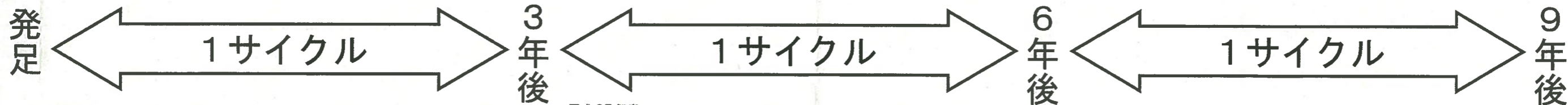
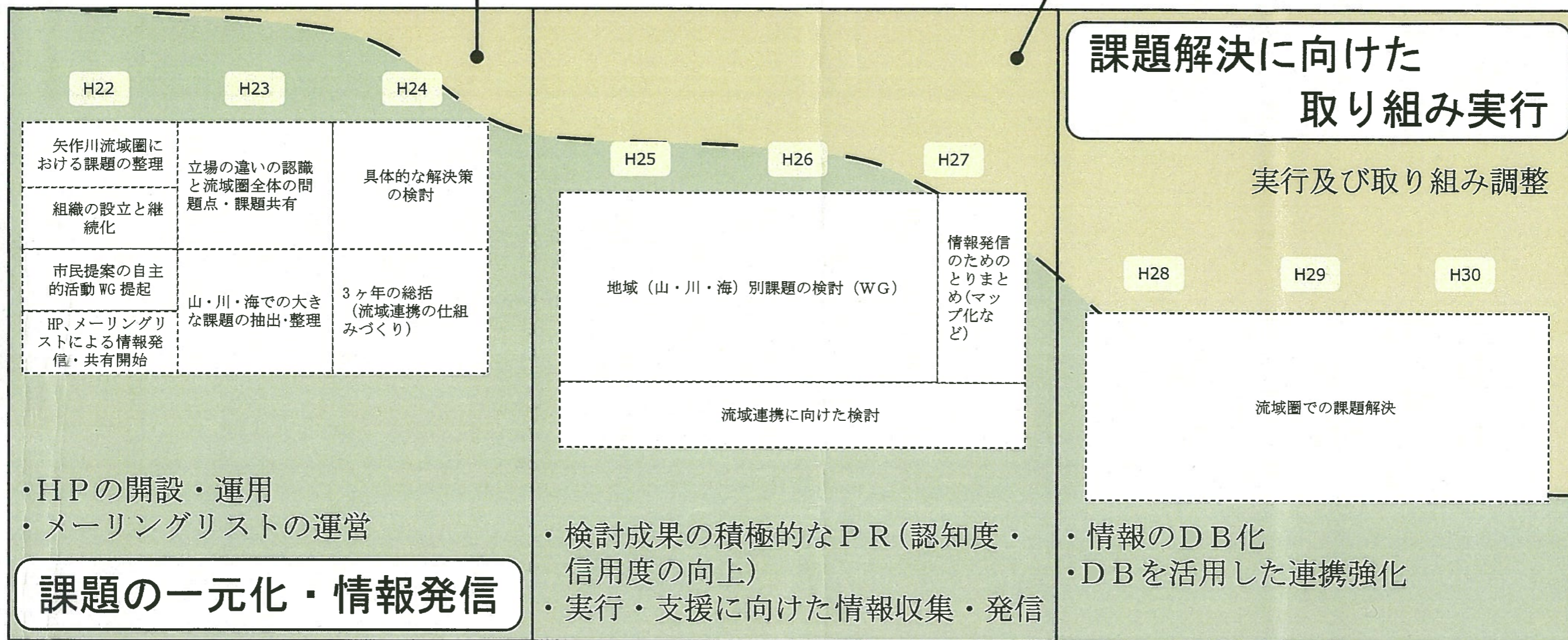


自発的な取り組みの推進

実行に向けた体制や支援の仕組み検討

## 課題解決に向けた 取り組み実行



平成 22 年度	①矢作川流域圏における課題の整理により、参加者の情報共有が進展 ②水をキーワードに、民・産・学・官が同じテーブルに着く組織が設立され、継続化 ③市民自らの提案により、自主的な活動（ワーキング）の提案も提起 ④ホームページやメーリングリストによる情報発信・共有の開始	成果
平成 23 年度	①お互いの立場の違いを認識した上で、矢作川流域圏全体の問題点・課題を共有する ②山・川・海でまず検討したい（大きな）課題を抽出・整理し、解決に向けた手法を検討する	目標
平成 24 年度	①具体的な解決策の検討や課題解決に向けた行動につなげ、当初3ヶ年の統括を行う（流域連携による検討のしくみをつくる）	目標

※H23 年度報告書より引用

平成 25 年度	①各地域部会で抽出された課題（テーマ）について、矢作川流域圏懇談会等の議論を踏まえ検討し、具体的な解決策を検討する（WG）。 ②流域連携のテーマについて討議する場を持つ（市民企画会議）。	目標
平成 26 年度	①各地域部会で抽出された課題（テーマ）について、矢作川流域圏懇談会等の議論を踏まえ検討し、具体的な解決策を検討する。 ②河川整備計画についてのフォローアップ実施 ③流域連携のテーマについての話し合いを持つ。	目標
平成 27 年度	①各地域部会での課題（テーマ）についてとりまとめ、中間3ヶ年の総括を行う。（マップ作成など情報発信のための準備） ②流域連携による課題解決のしくみをつくる	目標

矢作川流域圏懇談会における検討経過のイメージ

※流域圏懇談会の運営イメージ図に加筆